

教区主催
死者の月に当たり
全教区民のため追悼ミサ
日時 11月7日(日)15時
場所 浦上教会

発行所 カトリック長崎大司教区広報委員会
発行人 下 窄 英 知
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(843)3869 FAX 095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所 株式会社 藤 木 博 英 社
〒850-0852 長崎市万屋町5-13
TEL 095(821)2146 FAX 095(821)2148



10月・教皇さまの意向のために祈りましょう

- ①一般の意向：カトリック大学
- ②宣教の意向：世界宣教の日
- ③日本教会の意向：聖性への招きにこたえる

聖書に親しむ層の拡大目指し

聖書愛読マラソン 開会式

第8回聖書愛読マラソン大会(企画・教区評議会同大会実行委員会)の開会式が9月12日、長崎3地区長や各地区評議会・教区連合婦人会・修女連の代表者ら出席のもと、長崎大司教館聖堂で行われた。



一部に戸惑いの声も聞かれたが、それぞれに趣向を凝らし実施され、今年度の取り組みへとつながっている。開会式の中で小瀬良 明教区評議会事務局長は、「わたしたちはキリストと出会うために聖書を読むのです。出会った時、みことばをイエスさまを伝えずにはいられなくなるでしょう」と、聖書を読む大切

さを説いた。引き続き代表者9人は、前回の反省を踏まえた上での新たな決意を述べた。最後に、この日出席できなかった高見三司大司教に代わり小島 栄司教総代理が、「聖書に親しむためにはどのようにしたらいいか、信者の皆さんが、『ひよつとしたら楽しいかもしれない』と思えるような方向に進めていいただきたい」と励ました。

マラソンは、「聖書にもっと親しむ」ことを目標に今後も続く。

テーマ「生月島に育った信仰の証しを訪ね、巡る」日程11月20日(土)21日(日)定員40人 ※定員になり次第締め切り参加費1万5千円(昼食含む)プログラム

20日 8時カトリックセンター集合、8時30分出発→加津佐砂原キリシタン墓所→口津津殉教地(岬の聖母小聖堂跡碑)→原城跡→有馬川殉教地、セニリヨ跡、日野江城跡ほか→昼食→沖田原古戦場跡→島原殉教地→島原教会堂→雲仙殉教地→雲仙教会堂(雲仙キリシタン殉教道)→休憩→18時30分カトリックセンター着

申し込み先 NPO法人長崎巡礼センターTEL 095(842)2393 FAX 095(865)8191



殉教者に証しの力を願って

例年になく猛暑が続く中、9月5日(日)13時から大村市民会館で第35回大村殉教祭が行われ、高見三司大司教司式により、集まった約700人が共に祈りをささげた。

今年のテーマは「証のはじまり」そして「証のつづき」を巡る。記念ミサ前には、水主町教会の青年会と堅信組の子どもたちが、制作したスライド映像を使って205殉教者の『証のはじまり』だった「帯取」における、大村で最初の殉教者マシヤド、ペトロ両神父について、そして、「鈴田」において牢死を遂げたジョアン、フェルナンデス両神父らについて説明し、殉教の歴史を振り返った。



「神父さま、今日学校で嫌なことがあったよ」「なんのあったの?」「なんで教会にいくとね。」「神さまなんかおらんとて、ばかにされた」イエスさまと出会った人は、今の時代にあっても、たとえ子どもでも、証しすることが求められているんだなあ、と知らされました。(中略)さて、わたしたちはせっかくここに集まりましたから、殉教者に質問してみま

「神父さま、今日学校で嫌なことがあったよ」「なんのあったの?」「なんで教会にいくとね。」「神さまなんかおらんとて、ばかにされた」イエスさまと出会った人は、今の時代にあっても、たとえ子どもでも、証しすることが求められているんだなあ、と知らされました。(中略)さて、わたしたちはせっかくここに集まりましたから、殉教者に質問してみま

「神父さま、今日学校で嫌なことがあったよ」「なんのあったの?」「なんで教会にいくとね。」「神さまなんかおらんとて、ばかにされた」イエスさまと出会った人は、今の時代にあっても、たとえ子どもでも、証しすることが求められているんだなあ、と知らされました。(中略)さて、わたしたちはせっかくここに集まりましたから、殉教者に質問してみま

「神父さま、今日学校で嫌なことがあったよ」「なんのあったの?」「なんで教会にいくとね。」「神さまなんかおらんとて、ばかにされた」イエスさまと出会った人は、今の時代にあっても、たとえ子どもでも、証しすることが求められているんだなあ、と知らされました。(中略)さて、わたしたちはせっかくここに集まりましたから、殉教者に質問してみま

「神父さま、今日学校で嫌なことがあったよ」「なんのあったの?」「なんで教会にいくとね。」「神さまなんかおらんとて、ばかにされた」イエスさまと出会った人は、今の時代にあっても、たとえ子どもでも、証しすることが求められているんだなあ、と知らされました。(中略)さて、わたしたちはせっかくここに集まりましたから、殉教者に質問してみま

「神父さま、今日学校で嫌なことがあったよ」「なんのあったの?」「なんで教会にいくとね。」「神さまなんかおらんとて、ばかにされた」イエスさまと出会った人は、今の時代にあっても、たとえ子どもでも、証しすることが求められているんだなあ、と知らされました。(中略)さて、わたしたちはせっかくここに集まりましたから、殉教者に質問してみま



「神父さま、今日学校で嫌なことがあったよ」「なんのあったの?」「なんで教会にいくとね。」「神さまなんかおらんとて、ばかにされた」イエスさまと出会った人は、今の時代にあっても、たとえ子どもでも、証しすることが求められているんだなあ、と知らされました。(中略)さて、わたしたちはせっかくここに集まりましたから、殉教者に質問してみま

「神父さま、今日学校で嫌なことがあったよ」「なんのあったの?」「なんで教会にいくとね。」「神さまなんかおらんとて、ばかにされた」イエスさまと出会った人は、今の時代にあっても、たとえ子どもでも、証しすることが求められているんだなあ、と知らされました。(中略)さて、わたしたちはせっかくここに集まりましたから、殉教者に質問してみま

「神父さま、今日学校で嫌なことがあったよ」「なんのあったの?」「なんで教会にいくとね。」「神さまなんかおらんとて、ばかにされた」イエスさまと出会った人は、今の時代にあっても、たとえ子どもでも、証しすることが求められているんだなあ、と知らされました。(中略)さて、わたしたちはせっかくここに集まりましたから、殉教者に質問してみま

「神父さま、今日学校で嫌なことがあったよ」「なんのあったの?」「なんで教会にいくとね。」「神さまなんかおらんとて、ばかにされた」イエスさまと出会った人は、今の時代にあっても、たとえ子どもでも、証しすることが求められているんだなあ、と知らされました。(中略)さて、わたしたちはせっかくここに集まりましたから、殉教者に質問してみま

「神父さま、今日学校で嫌なことがあったよ」「なんのあったの?」「なんで教会にいくとね。」「神さまなんかおらんとて、ばかにされた」イエスさまと出会った人は、今の時代にあっても、たとえ子どもでも、証しすることが求められているんだなあ、と知らされました。(中略)さて、わたしたちはせっかくここに集まりましたから、殉教者に質問してみま

「神父さま、今日学校で嫌なことがあったよ」「なんのあったの?」「なんで教会にいくとね。」「神さまなんかおらんとて、ばかにされた」イエスさまと出会った人は、今の時代にあっても、たとえ子どもでも、証しすることが求められているんだなあ、と知らされました。(中略)さて、わたしたちはせっかくここに集まりましたから、殉教者に質問してみま

「神父さま、今日学校で嫌なことがあったよ」「なんのあったの?」「なんで教会にいくとね。」「神さまなんかおらんとて、ばかにされた」イエスさまと出会った人は、今の時代にあっても、たとえ子どもでも、証しすることが求められているんだなあ、と知らされました。(中略)さて、わたしたちはせっかくここに集まりましたから、殉教者に質問してみま

「神父さま、今日学校で嫌なことがあったよ」「なんのあったの?」「なんで教会にいくとね。」「神さまなんかおらんとて、ばかにされた」イエスさまと出会った人は、今の時代にあっても、たとえ子どもでも、証しすることが求められているんだなあ、と知らされました。(中略)さて、わたしたちはせっかくここに集まりましたから、殉教者に質問してみま

日本二十六聖人殉教者に関連する標語を募集します

長崎南地区評議会では来年2月6日(日)の「日本二十六聖人殉教記念ミサ」において、毎年開かれるこの行事にふさわしい標語の横断幕を掲げることになりました。その標語を、一般に広く関心を持っていただく機会とし公募します。どうぞふるってご応募ください。

1. 規定文字数 15文字程度
2. 設置場所 日本二十六聖人記念館2階(建物の外壁に横断幕掲示)※横断幕のサイズは縦約2m×横約16m。長崎教区の公式シンボルマークおよび標語など掲載予定。
3. 応募方法 はがきに「標語・教会名・住所・氏名・年齢」をご記入の上、下記へ郵送ください。
4. 締め切り 2010年10月末日(必着)
5. 選考 標語は1点選考し、発表は教区報「よきおとずれ」紙面ににて。※採用方には、記念品を贈呈します。
6. 応募・問い合わせ先 〒850-0055 長崎市中町1-13 カトリック中町教会 気付 長崎南地区評議会 日本二十六聖人殉教記念ミサ 標語係 (TEL 095-823-2484)

事務局長のわたしには、小教区のミサをお願いされることがしばしばある。正直、とってうれしい。だから、可能な限り引き受けることにしている。▼そこで見てくるのは、主任司祭が代役の司祭を見つかるのに苦労している、ということだ。やむなく休息をあきらめるか、期間を短縮し、過密なスケジュールを組まざるを得なくなる。週に一度の休みを会議にあてる司祭も多い▼そこまで苦労しているのに、なお、教会を留守にするのに後ろめたさを感じている主任司祭に、わたしは同情を禁じ得ない。小教区に1人の司祭しかいない上に、小教区以外の仕事もある。十分な休息も必要だ。信徒の皆さんには、ぜひこの点を理解願いたい▼また女子修道院が密集している長崎市内では、修道院でミサをする司祭を確保するのに大変苦労しているようだ。わたしもししばしば泣きつかれることがある。ミサは修道生活の源泉。それを考えると、大変気の毒に思う▼今後5年間のうちに75歳を迎える司祭は20余人。新司祭は数人。信徒、修道者の減少と高齢化も急速に進んでいる。こんな現実だからこそ、長崎の教会には明るい未来図が必要だ▼高見大司教の提唱で準備がスタートした教区シノドスに注目していきたい。(S)

滑石に結婚相談所開設 2人そろって教会へ行きたい

滑石教会(主任司祭・中村 満)には結婚を望む信徒のためのカトリック結婚相談所(CMC)がある。2009年のクリスマスからパンフレット配布を始め、活動を開始した。同相談所開設の提案者で担当者の畑原さんが話を聞いた。



畑原さんと、さくらの里聖家族教会設置予定の御像

畑原さんが結婚相談所開設を思いついたのは、学齢期の子どもを持つ親の世代が少なくなったことだった。20年ほど前までは2000人を超える子どもたちがいたが、その後徐々に減り続け、一時は50人を割ることもあった。少子高齢化の影響があることも事実だが、それだけでは足りない。そのことに気づかされたのは、教会で姿を見ることが少なくなった女性信徒から

原さんによると、子どものために婚活をしている母親は少なくないそうだ。何とかカトリック信徒同士で結婚を支援できないだろうか。畑原さんは主任神父と相談し、小教区にカトリック結婚相談所を開設した。

パンフレット配布後、女性の申し込みはあるが、それに見合うだけの男性の申し込みが少ないのだという。彼女たちは、毎週一緒に教会に行ってくれる夫が希望だそう。畑原さんは、「特に40代の男性会員を募集中です」と強調した。

また、仕事関係の付き合いで、息子、娘の結婚相手について相談を受けることもあり、何人か紹介したこともあった。畑

平壤のカトリック教会を訪ねて

浦上教会・宮崎善信

8月18日(水) 25日(水)、「南北コリアと日本」のともだち実行委員会が主催する平壤での絵画交流に参加する形で、朝鮮民主主義人民共和国(以下、「朝鮮」と表記)を訪ねました。



祈りの会

2001年に始まったこの企画は、日本と朝鮮、韓国、在日コリアンの子どもたちが絵を描くことを通じて出会いと交流を体験し、将来的にこの地域における平和の構築を目指しており、今年で10回目になります。

9時のミサ後に、信徒会館にて70歳以上の高齢者と共に敬老祝賀会を開催した。

参加された敬老者は、28人。朝早くから腕により



チャンチュン聖堂

今回の朝鮮訪問では、日本にある朝鮮学校の小学生たちと朝鮮の小学生

たちが一緒に絵を描いたり山にピクニックに出かけたりして交流しました。ところで、平壤滞在中には市内にあるカトリック教会堂の長忠(チャンチュン)聖堂を訪れ、日曜日に行われる祈りの会(司祭がいなくてミサはできない)にも参加することができました。

祈りの会が終わった後、司式者の信徒会長さんとお話ができましたが、かつて1992年に相馬司教様(故人)が来られてミサを行い、数人に洗礼を授けたとのこと。また、

9時のミサ後に、信徒会館にて70歳以上の高齢者と共に敬老祝賀会を開催した。

参加された敬老者は、28人。朝早くから腕により

右の方からご寄付を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

長崎カトリック神学院

長崎カトリック神学院

長崎カトリック神学院

ふどう園

- ▼浜串教会 新FAX番号 0959(45)3052
- ▼島原・天草殉教者記念の集い『ガリラヤへ出会いと派遣のために』
- ①24時間聖体礼拝 10月9日(土)11時~10日(日)11時
- ②殉教記念ミサ 10月10日(日)13時~14時半 南有馬町原城本丸跡
- 問合先・島原教会 TEL 0957(62)2952
- 純心聖母会島原修道院 TEL 0957(62)2092
- ▼「CLCつてな」に祈り、分かち合いながらクリスチャン・ライフ・コミュニケーションを体験する
- 集い 10月11日(月)10時~15時(14時30分) デ・ルカ・レンゾ師司式ミサ
- 立山黙想の家 参加費・千円
- 問合先・島原シオリ TEL 095(881)2357
- ▼公開聖書講座「インマヌエル(わたしたちと共にいられる神)」として教えられるイエス」 10月14日(木)19時~20時半 カトリックセンターホール
- 講師・澤田豊成師(聖パウロ修道会) 前売券800円(当日千円)
- 問合先・生涯養成委員会 TEL 095(841)7731
- ▼長崎カトリック神学院「二日体験入学2010」
- 10月16日(土)13時~17日(日)11時 会場・同神学院(長崎市橋町10-7) 対象・小学5年生~高校2年生のカトリック男子
- 問合先・同神学院 TEL 095(844)1096 FAX 095(840)0750
- ▼イエズス会立山修道院お知らせ ●祈りの一日
- ①10月16日(土) ②10月18日(月) ③10月25日(月) ④10月30日(土) ⑤11月3日(土)

(水) ⑥11月8日(月) 10時~15時半 ●祈りの日々

①10月9日(土) 11日(月) ②10月30日(土) 31日(日) ③11月6日(土) 7日(日) 初日17時~最終日の朝食または昼食後

TEL 095(821)4577

▼長崎コレジオ、長崎カトリック神学院合同「第2回召命祈願ミサ」

10月29日(金)19時 大浦天主堂

▼牟屋の殉教記念祭

10月31日(日)13時 牟屋の窄(五島市久賀島)

▼第11回枯松神社祭

11月3日(水)13時 黒崎枯松神社境内

▼126回クルシリヨ

11月20日(土)23日(火) イエズス会立山修道院

問合先・永山悦子 TEL 095(879)3611

▼黒瀬の辻殉教祭

11月21日(日)13時半 生月町黒瀬の辻

寄付

匿名 右の方からご寄付を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

長崎カトリック神学院

長崎カトリック神学院

長崎カトリック神学院



古巣師、溝部司教、フランコ師、宮越氏

教区典礼委員会主催 公開典礼講座

9月19日、長崎純心大学(三ツ山町)で公開典礼講座「殉教者を記念する」

約200人が、殉教祭への参加者減少などさまざまな問題がある中、殉教者をどのようにに記念すべきか多角的に見て学んだ。

最初に長崎教区司祭の古巣 馨師が基調講演し、「なぜ殉教者か」を導

9時のミサ後に、信徒会館にて70歳以上の高齢者と共に敬老祝賀会を開催した。

参加された敬老者は、28人。朝早くから腕により

右の方からご寄付を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

長崎カトリック神学院

長崎カトリック神学院

長崎カトリック神学院

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者 マリア 大島 睦子
(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095-822-8436
FAX 095-822-8436

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社 西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 寛己
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

平成23年度 児童・生徒募集《男子》

精道三川台小・中学高等学校

公開授業および説明会

10月31日(日) 9:30 公開授業
10:30 説明会

TEL 小学校 095-845-6846 中学高等学校 095-845-6161
〒852-8121 長崎市三川町1234-1 http://www.seido-gakuen.net/

平成23年度児童・生徒募集

長崎精道小・中学校(女子)

【公開授業・説明会】 11月 3日(水・祝) 9:45~
1月 22日(土) 9:30~

【説明会のみ】 小学校 11月 5日(金) 10:00~
中学校 11月 8日(月) 10:30~

〒852-8123 長崎市三原2丁目23-33 TEL 095-848-4766
http://www.nagasaki-seido.ed.jp

石 碑
墓地工事
写真彫刻
墓地分譲
なが さき せき ちょう
長崎石彫
ヨゼフ 岩永 博明
☎(095) 862-2469
長崎市梁川町6-17 岩永ビル

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
(有) **栄光式典社**
代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎市辻町7-18 TEL (095) 844-4011
24時間営業 FAX (095) 843-9896

九州青年キャンプin長崎

8月28、29日、長崎大司教館、カトリックセンター、浦上教会を会場に「九州青年キャンプin長崎」が開催された。今年は長崎教区が主催し、「We are ちやんぽん」のテーマのもと、56人の九州内教区と東京・大阪教



滑石小教区設立40周年

教司式のミサの中で、大司教は、「ちやんぽんは、おいしい具とおいしい麺が合わさってはおじめての味ができる」「1人でやることは限られている。みんなと協調して一致する

滑石教会 (主任司祭 中村 満師) は9月1日、小教区設立40周年を迎え

同5日 (日) 感謝のミサをささげた後、信徒会館で茶話会を開いた。

小教区は1970年 (昭和45) 滑石団地の開設に伴い設立。その後、団地の急激な人口増と建物の経年劣化が目立ち、2008年 (平成20) 7月6日、新しい教会を献堂・落成している。

信徒会館で開かれた茶話会



区の青年が参加した。プログラムは、長崎の街をさぐる、分かち合い、朝夕の祈り、交流会、ミサを通して『教会共同体の中の自分』を考えるきっかけとなる内容。自分は教会共同体で何ができるのだろうか? 何をしていきたいのか? を真剣に、そして楽しく分かち合った。

29日の高見三司大司

戦後65 からし種・パン種

日本でさげられたマザー・テレサの祈り

千葉茂樹

【長崎原爆資料館にて】

戦後65年にあたる2010年8月、パン・ギムン国連事務総長が初めて被爆地を訪れた。世界は、昨年4月のオバマ米大統領のプラハ演説を契機に『核なき世界』に動き始めている。

マザー・テレサが、長崎を訪れたのは1982年。原爆資料館を時間をかけて歩かれた後で、記者団の代表から質問があった。「被爆の写真をご覧になったと思います



が、その感想は？」マザーは、言葉を選びながら重い口を開いた。「特にわたしが印象に残っているのは、あの一枚の写真です。それは、2人の人間が炭のように黒焦げになっている写真です。もしあの写真を見たら、誰も決して爆弾を

つくるという気にはならないと思います。ですから、わたしたちは資料館に行く前に真剣に祈りました」

続けて、マザーは祈りの大切さについて話した。「平和のために祈るには、まずゆるし合うことから始めなければなりません。そうすれば、わたしたちの心は自由に祈ることができるようになります。そうするためには、

まず、わたしたちの家庭に平和がもたらされるよう真剣に祈らなければなりません」

【世界の平和と家庭の平和】初めて日本を訪れた1981年、『生命尊重に関する国際会議』の中でも、マザー・テレサはわたしたち日本人が生命を軽視していることに触れて、厳しい警告を行った。当時の日本は中絶件数が年間70万件を超え、その異常さに触れ、世界では中絶天国ニッポンとさえ言われていた現実を

願った。『永遠の父なる神よ、ミサのたびに新たにされるキリストの受難と苦しみと心をあわせ、この場所にあるとされた原子爆弾がもたらした無数の人々の痛みと苦しみを、永遠の

「もし母親が、胎内の子どもを殺しても平気だというのなら他人同士が殺し合っても当然ということになります。中絶こそは平和の破壊者です」初来日から1ヵ月後、日本に4人のシスターが送られてきた。手始めに「未婚の母と子どもの家」をスタートするためであった。

そして、82年長崎を訪ねたマザー・テレサは人々に共に祈ることを願った。『永遠の父なる神よ、ミサのたびに新たにされるキリストの受難と苦しみと心をあわせ、この場所にあるとされた原子爆弾がもたらした無数の人々の痛みと苦しみを、永遠の

「永井博士は『如己愛人』という言葉を残し、カトリック信者としての生き方を身を持って示された方です。この佐世保の地では取り上げられる機会が少なかったもので、大変良かった」(女性)

3度目に来日した84年、マザー・テレサはさらに次のように呼び掛けている。

「Peace begins with a smile」平和は笑顔から始まる。平和というものは、決して平和の国際会議などで始まるものではありません。わたしと隣にいる人の間に、互いの命を尊び、いつも笑顔があるということ、そこから平和は始まるのです。

「永井隆博士と世界平和」講演

佐世保地区評議会

8月29日、佐世保地区評議会主催の「永井隆博士と世界平和」講演会が相浦教会で行われ、約



れぞれですが、教会に対する思い入れは変わらな

い。教会を愛し、大切にしている心は確実に受け継がれている」と話していた。また40周年のイベントとして、完成に向け取り組み中の小教区設立から今日までの記録写真の展示も行われている他、来年8月までの1年間、記念バザーなど多彩な行事を予定している。

「永井博士の生き方をあらためて知り、とても素晴らしいかった」(女性)「『神の摂理』が波紋を投げ掛け気になっていたが、永井博士の思いがわたしの思っていたことと同じだったので、胸のつかえがとれたよう良かったです」(男性)

「永井博士は『如己愛人』という言葉を残し、カトリック信者としての生き方を身を持って示された方です。この佐世保の地では取り上げられる機会が少なかったもので、大変良かった」(女性)

「永井博士は『如己愛人』という言葉を残し、カトリック信者としての生き方を身を持って示された方です。この佐世保の地では取り上げられる機会が少なかったもので、大変良かった」(女性)

「永井博士は『如己愛人』という言葉を残し、カトリック信者としての生き方を身を持って示された方です。この佐世保の地では取り上げられる機会が少なかったもので、大変良かった」(女性)

「永井博士は『如己愛人』という言葉を残し、カトリック信者としての生き方を身を持って示された方です。この佐世保の地では取り上げられる機会が少なかったもので、大変良かった」(女性)



350人が参加した。講師は長崎教区司祭でお告げのマリア修道会本部修道院付きの山内清海師。

山内師は、①永井博士の略年譜②爆弾直後の情景について③救護活動④孤児となる2人の子どもの序論として語り、続いて、永井における「神の摂理」と平和論、非戦思想、愛こそは平和の条件であるなど、博士の平和論を分かりやすく説いた。

参加者の感想。「永井博士の生き方をあらためて知り、とても素晴らしいかった」(女性)「『神の摂理』が波紋を投げ掛け気になっていたが、永井博士の思いがわたしの思っていたことと同じだったので、胸のつかえがとれたよう良かったです」(男性)

「永井博士は『如己愛人』という言葉を残し、カトリック信者としての生き方を身を持って示された方です。この佐世保の地では取り上げられる機会が少なかったもので、大変良かった」(女性)

「永井博士は『如己愛人』という言葉を残し、カトリック信者としての生き方を身を持って示された方です。この佐世保の地では取り上げられる機会が少なかったもので、大変良かった」(女性)

長崎北地区評議会研修会

8月29日(日)13時から滑石教会に約80人が集まり、「信徒の奉仕職」というテーマで長崎北地区評議会研修会が行われた。



はじめに、教区評議会事務局長の小瀬良明師が教区評議会の組織の在り方について分かりやすく話をした。その後、I「教会を生かす信徒の働きについて」(王職・仕えること)II「教会を生かす信徒の働きについて」(預言職・教えること)をテーマに中浜敬司師(同評議会事務局次長)が導入講話をし、グループに分かれてそれぞれの

「永井博士は『如己愛人』という言葉を残し、カトリック信者としての生き方を身を持って示された方です。この佐世保の地では取り上げられる機会が少なかったもので、大変良かった」(女性)

「永井博士は『如己愛人』という言葉を残し、カトリック信者としての生き方を身を持って示された方です。この佐世保の地では取り上げられる機会が少なかったもので、大変良かった」(女性)

木鉢教会納涼祭 信徒と地域住民との親睦

木鉢教会 (平本義和主任神父) は8月21日(土)、夜ミサ後に教会近くの広場で納涼祭を実施した。年々盛り上がりを見せる納涼祭は今年で4回目。第1回から「開かれた小教区」「地域に根差した教会」を目指し、信徒以外の地域住民の方々にも広く呼び掛けている。地元信徒の方々の話では、夕涼みがてら多くの方が参加するようになり、信徒同士、信徒と地域住民の方々との親睦の場として定着し



夏休みのいい思い出になるでしょう」と感想を話した。焼き肉、ソーメン、かき氷など飲食コーナーはもちろん、子どもたちのスイカ割り(写真)や花火でにぎわい、楽しんだ。

テレジア

入口フサ子修道女 (お告げのマリア修道会)



8月27日、聖マリア病院にて帰天。享年81歳。1929年8月11日五島市奥浦町に生まれ、46年3月31日奥浦修道院入会。

入会当初は農耕にいきし、その後、長年司祭館奉仕を使命として笑顔

を絶やさず黙々と奉仕した。晩年は感謝と祈りのうちに病苦をささげた。葬儀・告別式は8月28日、浦頭教会にて行われた。



ヨハネ

鶴巻初治さん (鶴巻健二師実父)

8月22日、脳出血のため長崎大学病院で帰天。62歳。厳しくも子ども好きな父親としての姿がうかがえた。

通夜は8月23日に木鉢教会で、葬儀・告別式は24日、高見三司大司教主司式で次男・鶴巻神父(中町教会)と37人の司祭の共同司式のうちに、シスター、たくさん信徒に見送られながら木鉢教会で行われた。

平和のためは できることは?

広島ピース・スタディ
参加者の感想



8月5・6日、教区福音化推進部が主催した「第2回広島平和学習」に長崎から総勢47人が参加した。今年は長崎教区高校生大会と合わせて行われたこともあって、多くの中高生・大学生らの姿があった。資料館や平和公園巡り、平和アピールをしながらの行進、ミサなど、各地から広島に集まった人々と共に国や宗教、世代を超えて平和を願い祈る体験をした。



8月6日追悼ミサにて

校6年生の時に行きまし。今回は原爆資料館に行き、原爆ドームも近くでみる事ができました。資料館ではその時の写真

「わたしは今まで自分が住んでいる長崎の原爆のことしか知りませんでした。この学習を通して、広島悲劇についてふれることができ、とても貴重な経験をさせてもらったと思います。またあらためて戦争のむごたらしさ、核兵器の恐ろしさ、平和の大切さを感じる事ができました。」

後日、参加者から寄せられた感想には「私も、さまざまなことを学んだと、感じたことや決意などが記されていた。」「わたしは2回目の参加でした。1回目は小学

(マルコ5章25・34節)娘よ、あなたの信仰があなたを救った。もうその病弱にかからず、元気に暮らさない。」

イエスさまの教えは「愛しなさい」でした。「一番のおきては神を愛し、隣人を愛すること」

こどもも言われました。「わたしはあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」

イエスさまはいつも出会う人を大切にされました。イエスさまがカファルナウムに舟で戻られると、たくさんの人が待ち

みことばにふれて67 お告げのマリア修道会 赤須須美子修道女



受けていました。人気絶頂のイエスさまを見た人、お話を聞きたい人、子どもを祝福してほしい人、病気を治してもら

いた人、いろんな人でいっぱいでした。すぐに、ヤイロという人が、死にそうな娘を治してくれと頼みしたので、イエス

五島列島夕やけマラソン 3人の司祭・信徒“力走”



8月28日(土)五島市で夕日を背に走る五島列島夕やけマラソン大会が行われた。夕方5時30分スタート。コース

平和とは『核兵器、戦争、差別が完全でない世界』だと思えます。そしてこのような世界を築いていくためには、次のようなことが必要だと思

さす。まずは急いで家に向かうとしたのですが、急に立ち止まって「わたしに触ったのは誰ですか?」と言います。お弟子さん

ます。まず核兵器、戦争をなくすために私たちに今できることは、一人一人が核兵器の恐ろしさ、むごたらしさを知ることだと思えます。それは、過去の記憶が忘れ去られた時、歴史が繰り返されるおそれがあるからです。また、差別をなくすためには、思いやりの心

を持つて人と接すること大事だと思えます。一人一人の意識を高めていくことが平和への第一歩ではないかとわたしは思っています(高校生)

※多数の感想が寄せられましたが、紙面の都合上、一部のみ掲載しました。ご協力ありがとうございました。

長崎地区子ども スポーツ大会



8月18日、シーハット大村で長崎地区子どもスポーツ大会が行われ、ドッジビーの熱戦が繰り広げられた。今年は五島からの参加もあり、19教会22チーム、約400人の小学生が参加した。

やってくる人気の真夏のイベントである。3師そろってハーフの部21.0975kmへのエントリーで、浅田照明師、真浦健吾師はこのマラソン大会の常連で、山添克明師は初出場。また市内の信徒も多数参加しており、中には10回以上出場のベテランも。ゴー

ル地点の港公園では、ゴールする選手たちのために「五島牛試食会」「星空コンサート」も準備され選手たちを待ち受けた。沿道の声援を受けながらそれぞれの記録に挑戦した3師は元気に完走し、さわやかな笑顔を見せていた。

楽しい1日を過ごした。【結果】優勝 植松教会、準優勝 浦上教会、3位 三ツ山教会。

カトリックセンターで 新旧7本上映



大会は、日本で最後に沈む夕陽を背に、西海国立公園・五島列島・福江島を走るユニークな大会として広く親しまれ、地元市民ランナーはもとより全国各地から五島に

だけだけでなく、そんな病気に加えるのは罪人で、神さまに嫌われている証拠だといやがられて、心もボロボロだ。

イエスさまは優しく見詰め「娘さん、あなたの信仰が病気を治したのですよ。これからは元気で暮らさない」とその人をほめ、励ましたのです。イエスさまは、みんなまとめてではなく、一人一人を愛し、励ましてくだ

わたくしもイエスさまのように、今日出会う一人一人を大切にできるといいな。(次回から野濱達也神父)

マザーテレサ映画祭



今年8月26日は福者マザー・テレサ生誕100年の日。この日を含んで、8月21日から29日の9日間、マザー・テレサ映画祭がカトリックセンターで開催され、新旧計7本が上映された。前教皇ヨハネ・パウロ2世と並んで20世紀最も有名なカトリックの1人だが、神の招きに単純に応えようと

するその信仰の力強さにあらためて気づかされる機会となった。

映画鑑賞後、「マザーの貧しい者への奉仕に徹する姿に、迷いも吹き飛びました」との声も聞かれた。

この作品が11月21日(日)カトリックセンターでも上映される。13時と15時30分の2回上映。カトリックセンター主催。前売券は大人千円(当日1300円)、シニア(60歳以上)700円(当日千円)、小中高生600円(当日900円)。10人以上で申し込みの場合は各

や体験者を、悲劇の主人公ではなく、「再生」のシンボルとして描いた物語は、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

11月21日
風のなかへ
第34回日本カトリック映画賞
受賞作品 上映決定!
カトリックセンター

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。小児がん患者

花のなかへ
10年の歳月が、命の尊さ、生きる意味を問いかけて、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません(伊勢監督の話・映画チラシから)

サイン・ジャパン
SIGNEIS JAPAN
(カトリックメディア協議会が毎年、会の趣旨に沿った選考で授与する日本カトリック映画賞。第34回受賞作品には「風のなかへ」小児がんと仲間たちの10年」(監督 伊勢真一)が選定され、今年6月川崎市で授賞式と上映会が行われた。

料金から100円引き。チケット取り扱い・問い合わせ先は同センター 宿泊部 TEL 095(846) 4246。[10年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力。それは不断に蘇る命そのものの力ではない